

スーパーグローバル大学創成支援事業 中間評価結果

大学名	九州大学
整理番号	A11
構想名	戦略的改革で未来へ進化するトップグローバル研究・教育拠点創成 (SHARE-Q)

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) B	当初目的を達成するには、助言等を考慮し、より一層の改善と努力が必要と判断される。
(コメント)	
<p>本構想は、九州大学が取り組んできた大学改革、教育・研究の国際化に係る取組実績と、「多面性（学術分野の多様性を活かした国際連携）」、「発展性（アジア戦略の成果に立脚した世界展開）」、「重層性（研究型総合大学としての層の厚い教育・研究）」という3つの強みと特色に基づいて、世界トップレベルの研究教育拠点を目指すものである。</p> <p>構想実現のための体制として、グローバル化推進本部の下に、レピュテーション・マネジメント（RM）ユニット、教育国際化ユニット、研究国際化ユニット、ガバナンス改革ユニットの4ユニットを設定し予算配分を実施するなど、総長のリーダーシップを発揮出来る体制整備が進められている。特に、レピュテーション・マネジメント体制を立ち上げ、国際的評価をマネジメントするという視点で教育・研究力を強化することを謳い、世界大学ランキングへの戦略的対応等に取り組んだ結果、ランクを上げている点は評価出来る。</p> <p>教育の国際化については、2017年度に四学期制が全学的に導入されたほか、2018年度に共創学部を開設予定である。また、2018年度及び2019年度に新たに6学部にて学士国際コースを創設予定であり、その成果が期待される。特に、強みとする学際的研究を基に、世界が直面する現在の諸問題を解決出来る人材養成を目的とする共創学部を開設することは、学生の自由な発想を重んじ、21世紀にふさわしい教育の場を提供出来るものと考えられる。</p> <p>一方で、QS世界大学ランキング、THE世界大学ランキングについては、設定した数値目標にまでは達していない。これは「すべての分野で世界のトップ100大学へ躍進する」という目標達成には、RMだけではなく、イノベーティブな大学である九州大学の本質を忘れず、研究力向上への具体的な施策を講じる必要があることを示している。また、多くの仕組みが構築されている点は評価出来るものの、それぞれの取組がどのように結実し、全学的な教育・研究力の強化や国際的評価の向上にどの程度寄与しているのかという点が明瞭でないことから、全体としてのまとまりに欠ける印象を受ける。</p> <p>今後、海外拠点の研究力強化に向けた活用や、ナンバリング実施、シラバスの英語化、「人文社会系分野」の国際評価の向上等をより一層進めるとともに、改めて九州大学としての優れた点を強化しつつ、グローバル化にも繋がる工夫や取組が成されることを期待する。</p>	